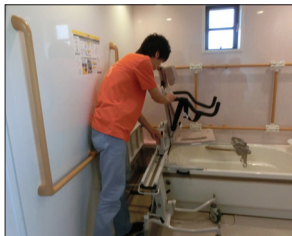


富山型デイサービス見学研修

8月5日、6日に夏の富山を訪ねて福祉に携わる方々に話を伺った。

氷見市地域包括支援センターでは七分由紀雄所長と前田栄秀副主任に介護保険改正後の市の動きを聞いた。市の主な産業は、水産業、農業、観光で財政は豊かではないとのこと。新総合事業の準備はこれからとの回答だった。一方、介護予防は以前から力を入れており、市内8か所にて週2回、9か月を目処に「きとくと100歳体操」講習を実施して習得する人を増やしている。この体操の指導者は要望に応じて市内どこへでも無償で派遣して大小を問わないグループ化を進め、現在22グループが自主活動中である。また、社会福祉協議会を中心にケアネットチームが形成されており、21地区においてお金を介さない見守り、買物支援、移動支援などが実施されている。山間部では高齢者のみの世帯が増えており、郵便や新聞の配達員が見守りの支援者になっていることなど支援の体系を紹介して頂いた。

赤ちゃんから高齢者まで利用できる「富山型、通所介護施設」として今年4月に開所したNPO法人デイサービスわかば「花みち」は、氷見駅から車で7～8分の往來の多い通り沿いに新築されている。迎えて下さったのは中村ゆみ理事長と兼仲勇氣施設長。木の香りが爽やかな天井の高いリビングを中心に、ベッドが置かれたスペース、床の間のある和室がある。どのスペースもゆったりとしており、窓から水田が広がる景色が眺められる。毎日入浴ができ、家庭用よりやや広い浴室には座位が取れば入浴できる最新のリフトが備えてある。利用者は自宅のリビングで友人達と過ごすように会話を楽しみ、鼻歌が合唱になっていくなど、スタッフは利用者を中心としたサポートをしている。施設長



氷見市「花みち」入浴リフト

は、「開所して日が浅いため子どもの利用は無く、我が子が遊びに来るくらい」と若い人の利用が無いことが課題だと語った。利用券を入れたチラシを配布して、子どもから高齢者まで利用できることを地域に発信している。若い施設長の今後の開拓が楽しみである。

高岡市にある「ひとのま」は、大きな寺院の門前にある民家を使ったコミュニティスペースで、開所5周年になる。1回300円で若者、子ども、主婦、サラリーマン、高齢者、誰でも利用でき、宿題、お絵描き、ゲーム、調理、食事、おしゃべりなど利用者が自由に過ごしてよい。主宰者の宮田隼さんは、利用者が自由に主体的に利用するように見守りに徹している。「ひとのま」を開所する以前は子どもの学習支援を志して市民団体や行政から情報収集を重ねていたためか、若者に関する相談は宮田さんに集まるようになり、必要があれば家庭を訪問して問題解決に尽力している。感情を抑えることが苦手な少年が、「ひとのま」に来れば何とかできそうだと話すと、他の利用者と共に夜間でも対応できるようにローテーションを組んで迎える体制を作ったり、食べる物が無いとの話があると、四方に声をかけて余った食材を集め、必要な人が持ち帰れるようにしたり、持ち込まれた相談に「人の力があれば何とかできる」と対応している。どこからも助成金を受けず、会費を中心に運営している姿勢が、団体や行政への偏りをつくらず、また、課題や相談に真摯に向かう姿勢により、多くの人から信頼を得ていることが窺えた。



高岡市「ひとのま」玄関

氷見市、高岡市は東京に比べると時間がゆったりと流れているように感じたが、それぞれの現場では熱心に相手と向き合う人がおり、また、若い力が活躍していることを熱く感じた。

山本和恵

調査報告会のお知らせ

地域の福祉は市民の手で

介護保険制度の改正で介護予防事業が新総合事業に再編されたことを受け、新総合事業について3年間の継続調査を実施しています。2015年度実施した第1回調査の報告会を開催いたします。基調講演を小林良二氏にお願いし、皆さまとの意見交換を行い次回調査につなげていきます。

基調講演 小林良二(東京都立大学名誉教授)

テーマ 介護保険制度と介護予防 ～一人ひとりの生活文化を大切にして暮らすために～

日時 2016年10月6日(木) 受付開始1時半 講演午後2時～4時

会場 新宿文化センター4F 第一会議室

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-14-1

都営大江戸線・東京メトロ副都心線「東新宿駅」A3出口より徒歩5分

東京メトロ丸の内線・副都心線「新宿三丁目」E1出口より徒歩7分

主催：特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社 03-3204-4342

編集後記：暑い夏、瀬戸の小島を訪ねた。豊かな緑のせい、東京で感じるよりも暑さが気にならず、自然の中でゆったりと時が流れる。一方で、前代未聞の台風10号は迷走の末、秋の収穫に大打撃を与えた。豊かな自然を跡形もなく破壊し尽くす自然の猛威の前に人の力は及ばない。自然の中で生かされていることを改めて考える。(M)